

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800424
法人名	㈱ケア21
事業所名	グループホームたのしい家垂水
所在地	兵庫県神戸市垂水区大町2丁目2-6
自己評価作成日	令和5年3月4日
評価結果市町村 受理日	令和5年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和5年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が安心して楽しく過ごして頂けるよう、レクリエーションを行い、その時の様子を写真に収め、入居者様が見れる所に貼らせていただいております。また、残存能力の維持を行うため、お一人お一人の出来ることを継続して行えるよう支援しております。コロナウイルスの感染予防のため、地域との交流がほとんどできなくなり、家族様との面会においても、制限がある中で家族様に少しでも安心していただけよう、毎月のレクリエーションや生活の様子を写真や文章でまとめたものを毎月送らせてもらっています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】タブレット端末を活用し、利用者の日々のケアや状態を管理し支援に繋げている。  
 【工夫点】職員のスキルアップ研修では動画配信での研修を取り入れられている。本社作成BCPを地域特性を盛り込み事業所独自のBCPを作成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	項目	取り組みの成果	
		↑該当するものに○印	↑該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 2. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 3. ほとんど掴んでいない <input type="radio"/> 4. ほとんどない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が見て、利用者のおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 2. 利用者のおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 3. 職員のおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 4. ほとんど満足していない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど満足していない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が見て、利用者のおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 2. 利用者のおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど満足していない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が見て、利用者のおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 2. 利用者のおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど満足していない

# 自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己評価		外部評価	
自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づき運営</b>			
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、職員全員で共有・実践をしている。	事業所理念は玄関内の目立つ所や各フロアに掲げ管理者と職員はその理念を共有して実践している。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域のボランティアさんに来ていただいたり、入居者様と近くのお店にお買い物をして出掛けていたが、現在はコロナの感染対策のためできていません。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう以前はボランティアを受入れたり、利用者や近所の店に買物等出かけたりにして日常の交流をしていたがコロナの感染対策で現在はできていない。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議に地域の方にも参加してもらい、それを通して事業所が行っていることについて、地域に伝える機会を作っていました。がコロナの感染対策のため、運営推進会議に地域の方をお招きできていません。	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前はできていたがコロナの感染対策のため、外部の方に参加してもらっていません。	運営推進会議は、以前は打合せ室で実施していたが、現在はコロナによる感染対策として書面報告の範囲で行っている。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告やその他市から提出を求められたもの(アンケートなど)を提出はしていますが、日頃から連絡を取ることはほとんどありません。	市町村担当と連絡を密にの範囲で以前は事故報告や他市から要求のあったアンケート等提出していたが、日頃の連絡はほとんどない。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を毎年行っている。で、全職員が理解できていると思います。玄関の施設については、できればとは思いますが事故に繋がりますクが高く、難しく感じています。	会社主導の身体拘束研修を年2回で全員が個別に受けて研修報告書を提出及び年2回に1回会議を行い廃止に向けての職員意識強化と共有を図り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年2回社内研修を行っており、職員はそれを受講しており、虐待発見者は通報義務があることも伝えていきます。	身体拘束と同様に年2回の研修を受講しており、虐待発見者は通報義務があることも伝え、虐待が見過ごせるないよう注意を払い防止に努めている。

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	左記について学ぶ機会は事業所としてはありませんが、申し出があった場合、対応できる範囲で対応できればと思います。	権利擁護の研修は個別と全員が受け、確認テストを行い研修テストを行って研修報告書提出により理解&防止を図っている。		
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はやめ改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については文章をそのまま読むだけでなく、なるべく分かりやすいように言い換えたりして説明を行っています。	契約については、時間を充分に取り、費用面、入居時点の体調、また看取りはご家族要望に応じ実施可能等の説明をしている。		
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様にケアプランの更新の際やその他日常会話を伺い、運営に反映させています。	十分な時間をとり、家族にケアプラン更新や日常生活会話を伺いこれらを運営に反映している。		
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、社内アンケートを行い、職員の意見・提案を聞く機会を会社として作っている。また施設ではカンファレンスや個人面談、その他普段の会話の中で意見や提案があれば聞いてできるだけ範囲で反映している。	代表者や管理者は、年に一度職員に対し社内アンケートを行い、職員の意見や要望を聞く機会を設け、又事業所無い内ではカンファレンスや個人面談を行い、意見や提案等をできるだけ範囲で反映している。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談にて職員それぞれに1年の目標などを立ててもらいそれを翌年の面談にて確認しています。また、誰伸び人事制度や技能段位制度といった制度を人事考課の材料として用い給与に反映させています。			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技能段位制度という介護スキルについて確認する機会を作り、段位による手当を支給している。社内研修として、認知症ケアや看取り、食中毒防止研修などを行い全職員に受講してもらっています。			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やケアマネは定期的に本社研修に参加し、他事業所の管理者やケアマネと交流する機会が作れている。また、管理者は地域のグループホーム連絡会に参加し他事業所の管理者と意見交換する機会を作			

自己第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入居前に面会を行いご本人の状態や困っていること、不安や要望をお伺いし、必要に応じて利用されていたデバイスなどから情報を提供してもらい、安心して楽しく生活できる様支援しています。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	ご本人だけでなく、家族様にも要望などをお伺いし、安心して施設に入居させてもらえるよう努めています。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に聞いた情報からどのような支援が必要か検討を行い、チームで共有し、入居後は必要に応じてカンファーズを行いサービスの改善に努めています。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲でスタッフと一緒に家事やフロアの飾りつけを行ってもらい、ご自身の役割を感じてもらえるよう支援しています。			
19	○本人を支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支	少なくともひと月に一度は家族様に状態の報告を行い、通院が必要になった時には職員と家族様で協力して対応しています。			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を守って頂ける状態であれば馴染みの人や場所との関係が途切れない様支援しています。		ひとり人の利用者について、その人の生活歴など把握してこれまでの地域との関わりを継続していくために、その関係を断ち切らないような支援を心掛けています。これまでの活躍の場である自宅など様子を見たいとの希望で立ち寄ることもあります。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアのお席を、利用者様同士の関係も考慮し、適時入れ替えを行っています。また、スタッフが間に入り、利用者様同士の会話や交流のきっかけ作りを行っています。			

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて電話連絡を行い、ご家族様から問い合わせがあれば、相談・フォローに努めています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけご本人の意向に沿った生活を送れるよう支援しています。困難な場合はこれまでの生活歴や家族様の意見を参考にし、本人本位のサービスが提供できる様努めています。	利用者がその人らしく暮らし続けていくため本人にとつてどのように暮らすことが最良なのか丁寧にアプローチしている。言葉にしづらい思いを、日々の行動や表情から汲み取り把握し把握しづらい場合は家族や関係者から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や趣味、1日の過ごし方などを伺い、サービス利用の経過などの把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンスなどにて状態の共有を行い現状把握、より良いサービスが提供できる様努めています。			
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設職員だけでなく、家族様、往診医、訪問看護師、訪問歯科からも意見やアイデアをもらい、介護計画に反映させています。	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を行う。日々の関わりの中で、思いや意見を聞き、また個別記録をもとに介護計画に反映している。病状や口腔ケアに関する課題など専門職の意見を取り入れ支援を展開している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記載し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などを記録や連絡ノートに記入し、情報を共有しながらケアを提供、介護計画の見直しを行っています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族様からのご意見や、状態の変化に気づき、それに対応できる様サービスを提供しています。			

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策を行ったうえで地域への外出や家族様や馴染みのある方の面会を受け入れていきます。			
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は必ずここに行ってくださいということではなく、これまでの受診歴やご本人や家族様の希望される医療機関に受診してもらっています。	かかりつけとは24時間相談できる体制が整っている。訪問看護師との連携もスムーズに行われている。一人ひとりの受診の経過や、現在の受診の希望を把握し、希望する医療機関による受診ができる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師が来られるので何かあればお互いにその都度報告している。また、介護職に判断ができない体調変化などがある場合は24時間電話対応での指示を仰いでいる。			
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された際には情報提供書を提出し、ADLや普段の様子、施設でのケアの状況などを伝えていきます。また、できるだけ早期の退院を受け入れており、医療行為が必要でなければ施設での受け入れは可能です。	入院時には、本人への支援方法に関する情報など提供している、入院によるダメージを極力防ぐために病院とは情報交換を行っている。早期に退院できるよう家族と共に回復状況の確認や退院後の生活リハビリに関することなど確り情報を聞き取り退院に備えている。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・終末期ケアについて説明している。入居後も必要に応じて施設や往診医から家族様へ状態の説明や改めて重度化・終末期に向けた話し合いを行っている。	早い段階から本人、家族と話し合いの機会を設けている。重度化・終末期のケア及び延命処置について契約時に説明し意向を確認している。事業所が対応し得る最大の支援方法への説明を行っている。家族や医療関係者等と連携を図りながら安心した最期を向えられるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアル・フローシートを掲示し、周知を図り、研修も行っていきます。			
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に2回、地震や火事を想定した消防避難訓練を行い、避難経路や設備の確認を行っています。感染対策のため地域の協力はお願いできていません。	年2回火災や地震を想定した避難訓練を実施し、避難経路や設備等の確認を実施している。地域の方の協力は、感染対策上辞退している。		

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーや人権擁護に関する研修を行っており、人格の尊重や誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を行っています。	人生の先輩として敬意を払い、馴れ合いの中で本人の尊厳を損ねるような言葉がけをしていないか、プライバシーを損ねるものになっていないか日常的に確認を行う。改善に向けて接遇マナーなど研修を計画的に実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でなるべく自己決定が出来る様、本人の意思を確認する声掛けを行っています。また、買い物出しの際にどんなものを買ってきて欲しいか尋ねたり、タイムタイムに何が飲みたいか確認し、出来るだけ自己決定ができるよう努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にあらゆる場面において、本人の思いを確認する声掛けを行い、拒否があった時には無理に行ったりといったことがないよう努めている。			
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	可能な人にはご利用者様本人に服を選んでもらっています。ご自分で選べない人には職員が入居者様に確認を行い、服を選んでいきます。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で野菜の皮むきやカット、炒め物などの調理、食器洗いや食器拭きなどの片付けを行っています。	食材は業者から届き、皮むき、カットから調理すべてを事業所で行います。利用者の個性の力を活かしながら炒め、盛り付けなどできるお手伝いをしていただけます。四季折々の行事に合わせお花見やひな祭り、クリスマスなど食事レクも楽しみみとなっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に食事量や水分量を記載し、状態の確認を行っています。入居者様の嗜好に当たったもの、食べやすい大きさや温度に気をつけて提供しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方に対しては毎食後お一人お一人の必要な必要な範囲で口腔ケアを提供できる様、歯科衛生士から口腔ケアに関する指導を受けています。			

自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄ができるようにトイレの声掛けや介助を行っています。また、ご本人と相談しながら、安心パットやパットなどの排泄用品の選定も行っていきます。	排泄パターンや排泄量を数値化させタブレット内を活用し管理している。一人ひとりのサインや状況を全職員で確認することができます。自尊心に配慮し、利用者の状況を察知して身体状況に応じて支援したり、トイレでの排泄を大切にしながら見直しながら支援している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の接種を促したり、介助で歩ける方にはなるべく歩いてもらい、排便を促しています。また、便の状態を確認し、医師や看護師に相談しながら下剤の調整を行っています。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回は入浴してもらえようように事前に曜日は決めさせてもらっていますが、入居者様の思いを尊重し、入りたくない場合は時間をずらしたり、曜日を入れ替えて対応しています。	一人ひとりのその日の希望に合わせ確認し、週2回入浴していただく。利用者の習慣や希望には多様性があり、好みなど聞きながら支援している。入浴を拒む方には、無理強いせず入浴への負担感など職員間で理解しながら柔軟な対応を心掛けている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間入眠時間が短かった方や、お身体の状態を考慮し、臥床の時間を設け、体んでもらっている。また、それ以外でもお一人お一人のペースで休める時は居室でゆっくり過ごしてもらっています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や個人ファイルに一人ひとりが服薬している、薬などについて職員が確認できるようにしています。薬の変更があった際には記録とノートに記載し、情報共有を行い、変化があった際には往診医やナーズに報告しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の残存能力を活かし、できることをなるべく継続して行ってもらえるよう支援しています。また、楽しく生活できる様々ないろいろなレクリエーションを企画しています。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花の水やりやゴミ捨て、近所の散歩やドライオなどを行い、外に出る時間を作っています。感染対策の為、家族様や地域の人々に協力は依頼できていません。	一人ひとりの楽しみごとに合わせて、短時間でも外出する機会を設けている。コロナ下で制限のある中ですが、天候を見ながら近隣周辺の散歩など行っている。職員と1対1を基本に出かけます。1階花壇の水やりや2階ベランダでのプランターなど外気浴を楽しめる機会としてまた活動の一つとして取り入れられている。	

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染対策のため買物は職員のみでおこなっています。要望がある方には職員が代理で購入してきています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかかってきた際や電話をしたいと要望があった際には施設の電話をつかい、お話をしてもらっています。レクで年賀状作りを行い、新年のあいさつをしてもらいました。			
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション時の写真や季節ごとのものを飾ったり、入居者様の好みに合わせた雑誌を置き、居心地よく過ごせるように努めています。	共用の空間は利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないよう配慮し生活感や季節の行事等を壁に掲示や入居者の好みに合わせた雑誌等を置き、居心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の人間関係を見ながら、出来るだけストレスが少なくなるようお席を決めさせてもらっています。お一人で過ごしたい時には居室で過ごしてもらっています。			
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や食器、思い出の写真などを持ってきてもらい、少しでも安心して過ごしてもらえよう家族様に協力していただいています。	居室は本人の使い慣れた家具や写真等好みものを活かして居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内は一人ひとりの「できること」がわかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あらゆるところに手すりを設置されており、入居者様の安全、自立を考慮した造りになっています。また、何かあった時のためにカメラを設置し、必要時には事務所で見れるようになっていきます。			